

令和3年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

5

福岡県立京都高等学校(全日制課程)

自己評価					
学校運営計画(4月)				評価(総合)	
学校運営方針	地域のみならず世界を舞台に活躍する将来のグローバルリーダーを育成する。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
創立105周年を迎え、次の100年に向けて、社会の変化に対応した新たな京都高等学校を創造する転換期を迎えている。平成27年度から5年間の文部科学省「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」研究指定は、とびうめ教育表彰を受賞する等有終の美を飾って終了し、各方面から高い評価を受けた。SGH終了後も新たに「京都グローバル人材育成プロジェクト」を立ち上げ、「グローバル人材育成」の方向性を堅持する。また、学校内外に、本校のミッション、将来ビジョン、目指す生徒像、教育の重点目標等を具体的に示し、生徒・保護者及び地域等から信頼され、かつ、求められる学校づくりを行う。新型コロナウイルス感染症防止対策については、生徒、職員の健康を第一に考えて行う。	行動を起こし、真価を勝ちとる。	教育課程の実施状況を適宜評価してその改善を図るとともに、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の改善を図りながら、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図り、学校教育目標の達成に向けて取り組む。			
	『徹底』と『根拠』を意識した教育を展開する。	生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、希望進路の実現に向けた学習活動や部活動を推進し、学校・家庭との連携を徹底させる。また、明確な根拠を持って教育活動を行うように努める。			
	相手に対して思いやりの心を持って自分の考えを伝えることができる生徒を育成する。	思いやりの心を重視し、学校教育全体を通して真のリーダーとしての資質を高める取組を推進する。また、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じるとともに、生徒の安全で快適な学習環境を確立し、生徒の心身の健全育成を目指す。			
	志をもって意欲的に学ぶ生徒を育成する。	京都高校CBAプランに基づく教育活動を充実・推進し、生徒の学習意欲の向上、進路実績の飛躍を図る。また、総合的な探究の時間の充実を図り、課題発見・解決型探究活動を展開する。			
	困難に立ち向かうことができる逞しい生徒を育成する。	今日的な社会課題の発見・解決に取り組む、自己表現できる力を伸ばす。また、「鍛えてほめる」ことにより、自らの課題に正面から取り組み、克服する問題解決能力を育成する。			
			A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
総務企画部	生徒の家庭学習時間の増加	家庭学習時間調査を毎週行い、結果を分析して、指導の充実を図る。 個人面談を計画的に実施し、家庭学習のあり方について指導する。	A	A	生徒が主体的に学習に取り組む意識を高めていく必要がある。 校務支援システムの入力内容を点検する手順を確立する必要がある。 学校ホームページのトップページの改良が必要である。
	校務支援システムの円滑な運用	校務支援システムの運用ルールの見直しを行い、業務の効率化を図る。 校務支援システムの運用上の課題を整理し、対応を検討する。	B	B	
	広報活動の充実	ホームページの更新を週に2~3回行い、積極的な情報発信を行う。 中学校訪問を計画的に実施し、得られた情報を全職員で共有する。	A	A	
企画庶務部	業務の電子化の推進	情報漏洩の防止について研修を実施し、情報管理の徹底を図る。 ICTを積極的に活用することで、業務の電子化を推進し、効率化を図る。	B	B	教職員のICT活用能力の更なる向上が必要である。
生徒育成部	心身の健全な育成	学校行事や委員会活動の充実を図り、生徒の主体的な活動を支援する。 いじめの未然防止・早期発見に向けた取組を確実に実行する。	B	B	コロナ禍における学校行事等の在り方について検討する必要がある。 部活動における感染防止対策を徹底していく必要がある。 職員の人権意識向上に向けた研修を充実させる必要がある。
	健康管理能力の向上	日常的な健康観察や健康相談に取り組む、適切な指導を行う。 新型コロナウイルス感染予防対策(マスク、手洗い、消毒、換気)を徹底する。	B	A	
	人権意識の向上	人権教育特設授業については、指導内容の検討を十分に行って実施する。 人権意識の向上に向けた職員研修を計画的に実施し、内容の充実を図る。	A	A	
キャリア教育部	体系的・組織的な進路指導	考査や模試の事前事後指導の充実を図り、学習のPDCAサイクルを確立させる。 難関大10名以上、国公立大100名以上の合格に向け、生徒の学力向上を図る。	A	A	進路指導の在り方についての検証・改善を継続していく必要がある。
教育研究部	校内研修の充実	ICTの活用方法について研修を実施し、職員のICT活用技能の向上を図る。 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究授業を実施し、指導力向上を図る。	A	A	思考力・判断力・表現力を育成する授業について研究する必要がある。 図書館や視聴覚教室の利用促進に向けて取り組む必要がある。
	学校図書館機能の充実	読書情報を積極的に生徒に提供し、図書館の利用者及び貸出冊数を増やす。 視聴覚教室の機材を整理し、授業における利用を促進する。	B	B	
グローバル教育推進部	「京都グローバル人材育成プロジェクト」の実施・改善	総合的な探究の時間の指導計画の改善・充実を図る。また「京都研修」を実施する。 「Plus One」を活用して生徒に自己理解を深めさせ、希望進路実現につなげる。	B	A	総合的な探究の時間の指導計画について、更なる改善が必要である。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である
	B : 概ね適切である
	C : やや適切である
	D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・家庭学習時間の調査結果を分析して教員間で共有し、個人面談で活用する体制ができたのは評価できる。 ・学校ホームページは見やすく、こまめに更新されている。更なる充実に向けて取り組んでいただきたい。
B	・ICT機器を最大限に活用して教育活動を充実させていただきたい。
A	・体育大会、文化祭、修学旅行が中止になったのは残念であった。コロナ禍における学校行事等の在り方について検討していただきたい。 ・学校における感染防止対策については、今後も徹底していただきたい。
A	・生徒の進路実現に向けて、指導の一層の充実を図っていただきたい。
B	・求められる資質・能力を生徒にしっかりと身に付けさせることができるよう、先生方の指導力の向上に向けた研修の充実を図っていただきたい。
A	・今年度新たに始めた「京都研修」は充実したものとなり良かった。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムの導入を踏まえた調査書等の点検手順を確立する。</li> <li>・生徒が主体的に学習に取り組む意識を高める取組を充実させる。</li> <li>・コロナ禍における学校行事等の在り方について検討する。</li> <li>・業務の簡素化や効率化により、教員の働き方改革を推進する。</li> </ul>
--

<p>評価項目以外のものに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の簡素化や効率化により、先生方の働き方改革を一層進めていただきたい。</li> </ul>
--